

## 特別展「アマモ場の生きものたち ～二色の浜を調べてみよう！～」の報告

場所：貝塚市立自然遊学館多目的室  
期間：2015年7月25日～8月31日

現在、大阪府の海岸でアマモが自生する最北端に位置するのが二色の浜です。かつて泉州地方の海岸では普通に見られたであろう海草ですが、昭和の高度成長期の頃には、海が汚れ、アマモの姿もいつしか見られなくなっていました。二色の浜でふたたびアマモが確認されたのは、平成17年になってからです（山田、2006）。大阪の海の汚れも徐々に改善され、それを裏付けるように泉州の海岸ではアマモ場が見られるようになりました。

アマモ場の中は、魚類やエビ類、貝類などさまざまな小動物のよりどころとなり、またこれらの動物たちの産卵場所や稚魚の生育場にもなることが知られています。二色の浜のアマモ場には実際にどんな生きものたちがいるのか、平成26年、27年の両年にわたり和田太一さんらと調べてみた結果を主に紹介しました。



展示の様子

展示の目玉となったのは200 cm×70 cmの水槽でのアマモ場の生態展示です。造波装置を入れて、揺らめく波間にアマモが揺らめく様子を再現し、チヌやヘダイの幼魚、ヨウジウオなどを泳がせました。

アマモ場は多様な生息場所となっており、見つかった生きものを中心に写真パネルで紹介しました。

### 《アマモ葉上の生きもの》

ウミナメクジ、モロハタマキビ、チグサガイ、マツモウミウシ、コマユミノウミウシ、ミドリヒラムシ

### 《アマモ場内での生きもの》

ヒメイカ、ブドウガイ、ツノバネミノウミウシ、タツノオトシゴ、オクヨウジ

### 《アマモ場の海底の生きもの》

サンショウウニ、サンショウウニヤドリニナ、ネムグリガイ



アマモの分布調査の結果についても紹介しました。二色の浜でのアマモの被度を調べる調査では、スキューバを使用して6 m×100mのライン上のアマモの生育の有無を記録するベルトトランセクト法を行いました。阪南市沿岸の分布調査は平成18

年に上久保文貴 元当館館長が行った記録です。



阪南市のアマモを調べる上久保先生

また、阪南市鳥取の波有手の浜に生えるアマモの1年を追った絵本「波有手の海」(前田ゆきみ作)が、今年3月に発行されたので、この機に全頁をパネル展示して紹介しました。

陳列品としては、日本各地のアマモ場で見られる代表的な貝など12種の標本を児嶋格さん、大古場正さんの協力で展示しました。

特別展会場では常時放映として、二色の浜のアマモ場で今年7月に撮影した水中映像を大型モニターで映しました。

ワークショップコーナーではアマモ場の生きものスケッチ、ぬりえ、「竜宮の乙姫さまになろう」衣装を準備し、参加者に楽しんでもらいました。



「竜宮の乙姫さまになろう」コーナー

#### 謝辞

本展の開催にあたり、以下の方々、機関にご協力を頂きました。記してお礼申し上げます。(敬称略)

岩井克己、上久保文貴、江本大地、大古場正、河原美也子、喜多悠香、児嶋格、寺田拓真、傳雅子、名倉やよい、西出康介、濱谷巖、前田ゆきみ、三宅壽一、和田太一、大阪府栽培漁業センター、海藻おしば協会、二色の浜公園管理事務所、日本財団、三重県水産研究所

#### 引用文献

山田浩二(2006)リュウグウノオトヒメノモトユイノキリハズシ. 自然遊学館だよりNo. 40 : 8.